

研究報告書

豊見城市立上田小学校

I 研究主題

持続可能な社会づくりを担う児童の育成 ～ESDの視点で考える指導の工夫を通して～

II 研究主題の設定理由

2015年国連において「持続可能な開発目標」(以下、SDGs)が採択された。その中でSDGsの達成を実現するためには「持続可能な開発のための教育」(以下ESD)が方策の一つとして重要な役割を果たすと言われ、「正解のない課題」の解決に向けて「自分には何が出来るのか」を考え行動する資質・能力を育成することが必要不可欠となっている。また、学習指導要領では、全文及び総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科等においても関連する内容が盛り込まれた。併せて、全面実施となった学習指導要領では、実社会で活用できる資質・能力を確かに育てていくことに重点がおかれ、その実現のため、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が求められている。

本県においては、令和7年度より「授業改善」と「自立した学習者」育成を核とした学力向上推進施策「自立した学習者」育成プロジェクトが策定されており、令和7年度共通実践事項として、「児童生徒の変容につながるPDCAサイクルの確立」と「目指す児童生徒像の実現化を目指した校内研修の充実」が示された。また、「令和7年度沖縄県学力向上推進本部会議からの提言」(令和7年度～令和9年度)によると提言2「4つの取組と4つのポイントによる授業改善の推進」や提言7「社会の変化を捉えた教育の実現」では「自立した学習者」の育成を目指した取組の充実が示されている。さらに、提言6では「持続可能な社会の創り手としての幼児児童生徒の育成に向けた、学校・家庭・地域等の連携・協働の推進」においてSDGsを意識し、学校・家庭・地域等で役割を分かち合い、連携・協働した教育活動の充実も明記されている。これらを受け、「自立した学習者」の育成のために魅力ある学校を目指して授業改善に向けた取組を推進しなければならない。

本校では令和4年度から令和6年度までの3年間を通して、研究主題を「自分の考えをもち、広げ深める児童の育成」、副主題を「算数科における主体的・対話的な活動の工夫を通して」と掲げ、算数科を中心に取り組んできた。学習の進め方を共通実践事項とし、対話的活動が充実するような指導の工夫をした結果、活発な対話的活動を行う姿が見られた。このことにより、対話的活動の工夫を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現についての研究では、成果が得られたといえる。

一方で、児童の主体的な学びや自分にあった学び方、粘り強い取り組み、教師の指示なしでは動けない児童において課題が残った。つまり、児童が主体的な学びや自分に合う学び方ができる学習活動が適切に設定されておらず、課題を自分事として捉え、問いをもって主体的に学んでいく自立した学習者の育成が課題として明らかになった。また、仲間との協働的な学びの希薄さにおいても改善が必要であることが分かった。

そこで、本年度はESDの視点を教師が意識しながら授業を展開し、さらに授業で学んだ知識や技能が持続可能な社会づくりにどう生かせるのか等を考えさせる。そして、課題解決に向け児童が中心となる指導の工夫を通し、仲間との協働的な学びをすることで、ESDの資質・能力が育まれ「持続可能な社会づくりを担う児童の育成」につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

Ⅲ 研究実践の主な内容

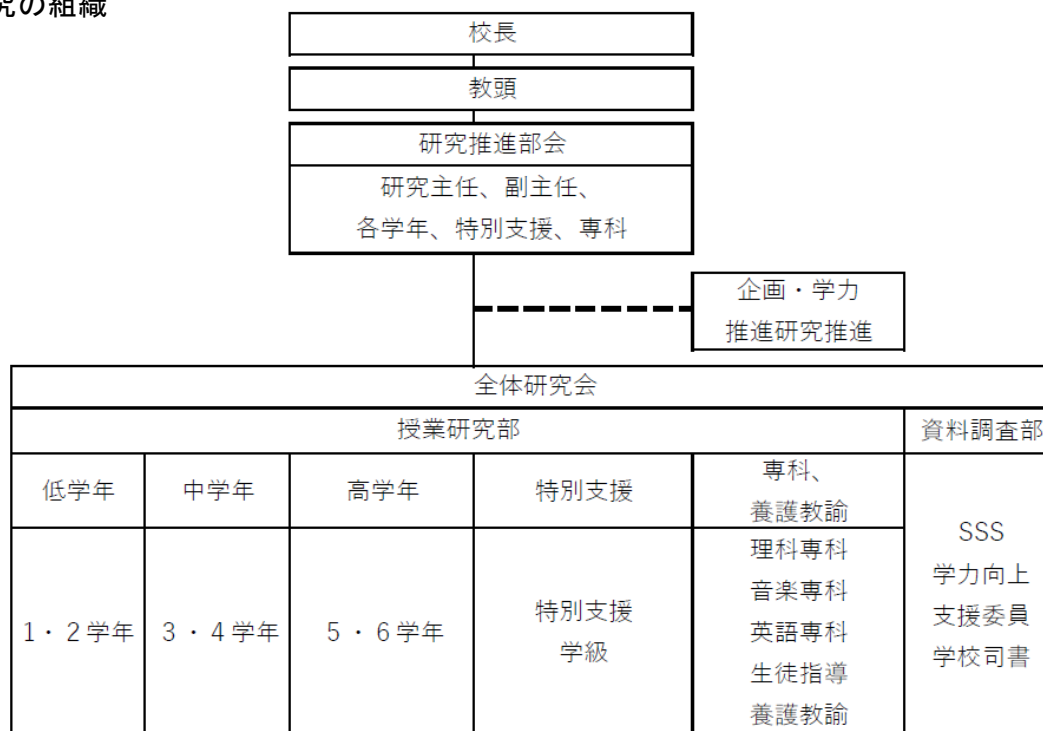
1 研究計画

回	日付	内容
1	4/2(水)	「学力向上推進スクールプラン」について
2	4/4(金)	研究主題、計画、授業について共通理解を図る
3	4/4(金)	心肺蘇生法講習（救急対応児童について）
4	5/21(水)	校務 DX について
5	7/4(金)	ESD の授業実践
6	7/17(木)	ESD 理論研修
7	7/22(火)	保護者対応・生徒指導
8	7/22(火)	全国学力調査の結果をふまえた授業改善の研修、算数・国語の伝達講習
9	7/23(水)	自立した学習者
10	7/23(水)	児童生徒理解のための教育心理学
11	7/25(金)	ポジティブ行動支援
12	7/28(月)	魅力ある学校づくり
13	7/30(水)	こども園訪問
14	9/17(水)	指導案作り、授業研の準備
15	11/12(水)	研究のまとめ（成果と課題）紀要・報告書
16	11/26(水)	研究のまとめ（成果と課題）紀要・報告書
17	1/28(水)	次年度のテーマと研究計画についての決定
18	2/6(金)	令和7年度校内研、中堅研、二年研報告会

2 研究の基本方針

- (1) 共通理解・共通実践のもと、全職員で研究主題を追求していく。
- (2) 研究仮説を設定し、仮説の検証に努める。
(総括評価…児童のノート、記述、単元、学期、年間を通しての学びの変容)
- (3) 全学年で検証授業を行い、指導力の向上に努める。
- (4) 校内研修日を設定し、計画的に取り組む。検証授業や理論研修では講師として指導主事等や、指導力・実践力に優れた教諭、大学教員等を招聘し、研究を進める。
- (5) 校内研修(全体研修)の司会・記録は研修部で行い、授業研究会・隣学年部会では、隣学年で司会・記録を担当する。
- (6) 研究の終わりには、取り組み内容とその成果と課題を記した研究紀要を作成する。研究紀要は、授業研究会の記録のみにならないよう配慮する。できるだけ、日々の取り組みがわかるような紀要にする。(板書写真や児童の様子、児童のノート写真等)
- (7) 同僚性と授業の質を高めるため、授業参観者は授業者と振り返りを行う。
- (8) 研究授業の2週間前には推進部会で指導案検討会をもち研究推進委員会で確認する。
- (9) 一人1授業は略案を活用し、全員公開授業を行う。

3 研究の組織



4 研究内容

(1) 持続可能な開発のための教育 (ESD) について

- ・ 持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身につけるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。
- ・ 国際理解、文化多様性、環境、防災、平和などの個別分野を持続可能な開発の視点から統合した分野横断的な教育。


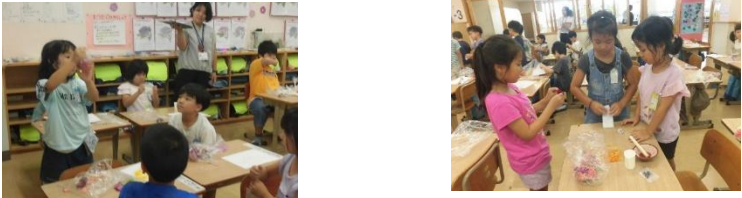

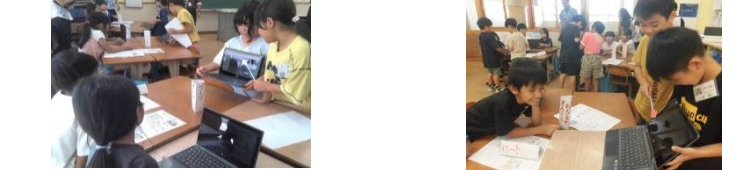
(2) ESD で問われる能力・態度について



- ・ ESD を進める学習内容 (持続可能な社会づくり) を構成する要素 (例)
 - I 多様性 (いろいろある) II 相互性 (関わり合っている) III 有限性 (限りがある)
 - IV 公平性 (ひとり一人を大切に) V 連携性 (力を合わせて)
 - VI 責任性 (責任を持って)
- ・ ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度 (例)
 - ① 批判的に考える力 ② 未来像を予測して計画を立てる力 ③ 多面的・総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力 ⑤ 他者と協力する力 ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 進んで参加する態度



(3) 学習指導要領における ESD の位置づけについて (前文) および「総則」)



一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。



5 研究実践例

<p>1年生 生活「きれいにさいてねわたしのはな」（6月）</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物を取り上げ，アサガオの花や葉を使ったいろいろな遊びの経験を生かして楽しく取り組めるようにする。 ・話し合いの場面では，活動の中の児童のつぶやきを取り上げたり，児童の作品を提示したりして気づきを共有させる。
<p>写真</p>	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道具を多くそろえることで，やりたいことがすぐにできる環境を整えることができた。 ○活動を自分で選択できたことで，子ども達が自主的に活動する姿が見られた。 ○活動と、気づいたことを伝え合う活動の時間を分けて確保し、子ども同士の考えを深め合う時間をつくることで，児童が考えを深めることができていた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●活動に時間がかかってしまったため、振り返りの時間をもう少し確保できて良かった。（タイムマネジメント） <p>改善策</p> <p>→1時間でできる内容ではないため、2時間連続で授業に取り組むなどの方法もある。</p>	
<p>2年生 生活「えがおのひみつたんけんたい」（10月）</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「④コミュニケーションを行う力」を養うために、ペアやグループで話し合う活動を多く取り入れた。 ・話し合う活動では、「話してね、聞いてねカード」を活用して話し合う視点を明確にした。
<p>写真</p>	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合いが上手くいくように場の設定を工夫した。「自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることがありますか。」について、「あまりない、ない」と答えた児童は、9月が15.6%から11月は11.5%に減っていることが分かった。 ○グループで発表させることにより、どうして働く人が笑顔になるのか、笑顔にどんな違いがあるのか考えている姿が見られた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体でまとめることができたが、児童一人一人の思考を見取ることが難しかった。 <p>改善策</p> <p>→ワークシートを工夫して振り返りの見取りをする。</p>	

<p>3年生 社会「SDGs について知ろう」(6~9月)</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習を取り入れた。 ・体験学習として、地域のスッパマン工場に見学へ行った。 ・ESD の視点を意識した授業作りを行った。
<p>写真</p> 	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工場見学をして終わりではなく、交通面を考慮した立地、観光客の集客にもつながっているということを子どもたちが気づくことができました。 ○短冊にすることで一人ひとりの考えをまとめることができ、対話が苦手な児童の意見も反映された。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●工場の生産が町の人々の生活と密接にかかわっていることを、もっと深く掘り下げて気づかせることができたら良かった。 <p>改善策</p> <p>→SDGs につなげるまでに、教師が押さえるべき内容を児童と確認していく。</p>	

<p>4年生 総合「SDGs について知ろう」(9月)</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タカラトミーのオンライン授業を通して SDGs の項目を知り「人生ゲーム」の項目を話し合い活動で学級オリジナルで作成。その過程で身近な SDGs について気づききっかけを持たせた。 ・話し合いの場面において、ESD の視点④⑤⑥⑦を意識した助言を行った。
<p>写真</p> 	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級オリジナル項目作成時、無意識の差別に気づいたり、周りを思いやることを意識することができた。 ○話し合いの過程で、いろんな価値観があることに気づけた児童がいた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●項目作成まではできたが、それを普段の生活につなげて行動するには課題がある。 <p>改善策</p> <p>→定期的に学級オリジナルゲームをしながら、項目について話す機会をもつことで、より実践力を持たせるようにする。</p>	

<p>5年生 社会「水産業のさかんな地域」(10月)</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習を進める中で学習計画を基に、グループで見通しをもって、最後まで粘り強く課題に取り組ませる。 ・持続可能な水産業を目指して、教科書や資料集、SDGs スタートブック、タブレット端末など様々な資料を活用して考えることができるような学習環境を整える。
<p>写真</p> 	
<p>成果</p> <p>○持続可能な水産業で自分達ができることを身近なことから考えることができていた。</p> <p>○ESDの視点を学級で確認していたので、他者と協力する態度を子供が意識していた。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本時の取り組みと評価の整合性をとる必要があった。 ●グループの時間をもう少し取らせなかった。 <p>改善策</p> <p>→知識・技能の評価だけでなく、思考力・判断力・表現力の評価も本時の評価も追加して見取る必要がある。</p> <p>→ワークシートをまとめる活動を自由進度学習の時間に取り組みせ、本時はPOPを作る活動を中心活動として、思考力・判断力・表現力の評価を見取っていく。</p>	

<p>6年生 特別活動「わたしの未来をつくるSDGsプロジェクト」(9月)</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら課題を発見して、その課題を解決するための目標設定をSDGsの観点から行うために、カリキュラムマネジメントの視点で横断的にSDGsを浸透させながら授業を行った。 ・話し合いを行う際に、見通しを持たせやすくするためにワークシートを活用した。
<p>写真</p> 	
<p>成果</p> <p>○ワークシートを活用することで子どもたちに自分事として学習の見通しをもたせることができた。</p> <p>○今回の授業は少人数でのグループ活動にして、司会や記録を立てたことで、誰かがやるだろうという人任せにならず、一人一人が真剣に考える様子が見られた。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもが「解決したい」「話し合いたい」と思える議題の選定が必要。 <p>改善策</p> <p>→特別活動と他教科・他の領域とカリキュラムマネジメントの視点で計画を立てる。</p>	

<p>特別支援 自立活動「自分の取り扱い説明書」(12月)</p> 	<p>実践したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自らで自分の特性について知り、自分の好きや嫌い・苦手についての取扱説明書を作成。その過程の中で友達の手を知ったり、苦手の克服方法を考え議論することで、自分の知識として会得したり、それを実践できるよう企画した。
<p>写真</p>   	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年混合・多人数への効果的な環境の設定ができていた。 ○話し合い活動を重視した授業構成がなされていた。一人で考えると一つだが、みんなで考えると複数の解決方法があるという気づきにつながっていた。 ○不安の強い児童への配慮など心理的安定が取れるような学級・授業づくりがほどこされていた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「話す・聞く」ことはできているが、会話のキャッチボール、相手の意見を受けて返すという対話の質を高める指導は、もう一段階ステップアップできそう。 ●個人目標と授業のまとめがやや結びつきにくく、「何をまとめたか」がわかりにくい面があった。めあてと振り返りを明確につなぐ構成が課題。 <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> →話し合いを段階化する。「考えをいう」→「友達の見解を聞く」→「友達の見解を受けて話す」など。 →個人目標をより明確化し、本時のねらいに近づけた「めあて」「振り返り」にする。 	

IV 研究実践の成果と課題

成果

- 児童の実態に合わせて身近な教材「植物」「地域」「産業」などを活用し、児童が主体的な学びや自分に合う学び方ができる学習活動を設定することで、課題を自分事として捉え、問いをもって主体的に学ぶ児童の育成につながった。

課題

- 1年間の活動を計画的に行うことや、振り返りの場を設けることで、持続可能な社会づくりへの意識を継続的に高める指導を行う必要がある。

改善策

- ESDの視点を教師が意識しながら授業を展開し、さらに授業で学んだ知識や技能が持続可能な社会づくりにどう生かせるのか等を考えさせ、課題解決に向け児童が中心となる指導の工夫をすることで、「持続可能な社会づくりを担う児童の育成」につながると思う。